

委員会名	自己点検者（委員長名）	①当該年度の活動内容の概要 （箇条書きで良く、参考資料は不要）	②委員会内での自己評価と問題点の抽出 （箇条書きで良く、参考資料は不要）	③次年度の改善方策 （箇条書きで良く、参考資料は不要）
薬学情報委員会	薬学情報委員長（浦辺 宏明）	<p>（1）薬学情報委員会を中心に、図書館・資料館運営委員会や出版員会の小委員会、学術情報課および図書館と連携を取りながら、大学からの事業報告、学術成果などの情報発信や学術雑誌などの情報受信を管理した。</p> <p>（2）図書館管理・運営として、コロナ禍における学生への図書館サービスの充実、開館時の感染予防対策を行った。</p> <p>（3）資料館管理・運営として、教材を各家庭に配布する新たな企画で、コロナ禍で対面実施ができなかった子供イベントを行った。</p> <p>（4）出版業務として、大学広報、研究紀要の出版を滞ることなく実施した。</p>	<p>（1）コロナ禍の中においても、図書館サービスの充実により、良好な学習支援が行えたと思われる。</p> <p>（2）子供イベントに関しては、定員を超える申し込みがあり、全てに対応するなど、受講者から高い評価を受けた。</p> <p>（3）本委員会は、おもに在校生、保護者、一般人を対象としているが、学内には、受験生を対象とした入試広報委員会があり、大学情報発信が多岐にわたっている。</p> <p>（4）様々な部署が担当する講演会やイベントが行われており、教職員の業務負担からも窓口を統一化する必要がある。</p> <p>（5）大学ホームページを管理・運営する委員会・組織が無く、今後の情報発信強化に問題が見られる。</p>	<p>大学における情報管理を統合し、インターネットを介した情報発信を強化することを目的として、本委員会は2021年度を持って、廃止となり、すべての大学情報を一元化した大学広報委員会に改編された。</p>

委員会名	自己点検者（委員長名）	①当該年度の活動内容の概要 （箇条書きで良く、参考資料は不要）	②委員会内での自己評価と問題点の抽出 （箇条書きで良く、参考資料は不要）	③次年度の改善方策 （箇条書きで良く、参考資料は不要）
図書館資料館運営委員会	図書館資料館運営委員長（植沢芳広）	<p>(1) 図書館資料館運営委員会で運営方針策定し、学術情報課と業務委託先の丸善雄松堂(株)が連携を図りながら業務を運用している。</p> <p>(2) 図書館の委託業務は主に選書・発注・受入・検収・目録作成・カウンター・レファレンス・相互貸借・開館閉館業務である。</p> <p>(3) 2022年度はコロナ禍による学生の登校制限が解除されたため、図書貸出郵送サービス（送料往復無料）を終了した。引き続き、電子ジャーナルのリモートアクセス・学生デジタル選書を開催し、利用者の利便性を高める活動を行っている。</p> <p>(4) 資料館の委託業務は主に総合案内・展示・資料の収集、整理、保存・寄贈・寄託資料等の受入・開館閉館業務である。</p> <p>(5) コロナ禍により資料館子供向けイベントは対面を取りやめ、教材を小学生の自宅に郵送し、自宅で体験できる企画とした。</p>	<p>自己評価</p> <p>(1) 本学における図書館および資料館運営は概ね適切に実施されている。</p> <p>(2) コロナ禍による学生の登校制限が解除されたため、図書貸出郵送サービスは終了したものの、それ以外においては学外からの図書館の各種リモートサービスを実施し、利便性を損なわないようにできた。</p> <p>問題点</p> <p>(1) 急激な円安による為替レート変動の影響を受け、電子ジャーナル等の新規購入が難しい状況にあった。</p> <p>(2) コロナ禍の影響を受け、オープンキャンパスや明葉祭の規模が縮小されたため、資料館来館者数も伸び悩んだ。</p> <p>(3) 資料館展示ケース照明設備の老朽化、収蔵庫に調湿機能が無いことによるカビの発生など設備の不備が見受けられた。</p>	<p>(1)電子ジャーナルの購入については、今年度は図書費等の予算を削減し一部充当することで対応したものの、円安時でも考慮した購入方針の検討が必要である。</p> <p>(2)資料館来館者数増加のため、学内イベント時には、より一層の周知を行う。</p> <p>(3)資料館展示ケース照明設備工事については、次年度予算を申請している。承認いただければ、蛍光灯をLEDに変更する。また、収蔵庫の調湿機能については、暫定的な対応として除湿器を設置しているが、今後の対策として、施設管理課にて空調工事を検討いただく予定である。</p>

委員会名	自己点検者（委員長名）	①当該年度の活動内容の概要 （箇条書きで良く、参考資料は不要）	②委員会内での自己評価と問題点の抽出 （箇条書きで良く、参考資料は不要）	③次年度の改善方策 （箇条書きで良く、参考資料は不要）
入試広報委員会	入試広報委員長（林 弘美）	<p>入試課と連携を取りながら、以下のことに取り組んだ。</p> <p>(1) 『アクセスガイド』の発行（年1回）： 2020年(2022年度版)から新たな業者に依頼し、従来とは少々雰囲気の異なる冊子を作成している。2021年に作成したもの(2023年度版)からは新たな試みとして、QRコードを利用して動画への紐付けを行なった。</p> <p>(2) オープンキャンパス・進学説明会の実施（年4回）： 新型コロナウイルス感染症対策として、大規模な夏のオープンキャンパスと秋の進学説明会は見合わせるとともに、来場型ミニオープンキャンパスとWebオープンキャンパスに移行した。春のオープンキャンパスも規模を縮小し、予約制で実施した。</p> <p>(3) Webオープンキャンパスの運営（年2回更新）： 2020年夏に公開したWebOCを2021年7月に全面リニューアルした。</p> <p>(4) DM・電車内ポスターの作成： 費用対効果を検証し、車内掲出の回数を減らした。</p> <p>(5) 高校訪問（模擬講義・学校説明会）への参加： 高校からの依頼に応じ、担当者を募り、訪問を行なった。</p> <p>(6) 入試課中心に行なっている以下のイベントや業務のサポートを行なった。</p> <p>(i) 「夢ナビ」への参加 (ii) メルマガ・LINEの発信（準備中） (iii) 各種媒体への広告掲載など</p>	<p>(1) 本学における入試広報活動は概ね適切に実施されている。</p> <p>(2) アクセスガイドは、従来通りに作成することができた。大学の情報収集がウェブ中心になりつつあるとはいえ、やはり冊子も重要であり、Web版との連携も考えながら、今後でも作成を進めていく必要があると思われる。</p> <p>(3) 受験生に対し、実際のキャンパスを見てもらうことが大切であるにもかかわらず、新型コロナウイルス感染症の影響でオープンキャンパスを大規模にリアル開催できないことは残念であった。それを補うために、2020年度に引き続きWebオープンキャンパスの充実に努め、新たな企画として来場型ミニオープンキャンパスを実施した。またそれを補完することとして、入試課が学校見学（事前申込制）を実施してくれたことが大変助けとなった。</p> <p>(4) Webオープンキャンパスにおいて公開するために動画を多くの作成したことは、これまで本学に来るのが困難であった遠方からの来校者にとっては利便性の高いものであった</p>	<p>(1) 今後、新型コロナウイルス感染症に対する対策が進むにつれ、対面方式のオープンキャンパスの実施とWebオープンキャンパスの公開（リニューアル）の両方が求められていくことになると思われる。両者の連携と効率化、また、本委員会を超えて全教職員や学生の協力がますます求められると予想される。適宜、入試広報活動の重要性を伝えていく必要がある。</p>